

## 令和6年1月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,940	9,275	4,675	4,600	46	71
2 千 石	4,161	6,887	3,454	3,433	△ 14	△ 16
3 内 山	5,735	7,948	4,269	3,679	△ 7	△ 15
4 大 和	3,613	6,666	3,303	3,363	6	△ 6
5 上 野	7,512	15,416	7,538	7,878	13	△ 19
6 高 見	7,382	13,249	6,321	6,928	△ 15	△ 16
7 春 岡	7,055	11,024	5,825	5,199	13	17
8 田 代	11,357	21,910	10,467	11,443	27	60
9 東 山	10,341	19,028	9,289	9,739	△ 18	△ 21
10 見 付	4,549	8,424	4,243	4,181	△ 27	△ 38
11 星 ケ 丘	3,586	6,827	3,035	3,792	△ 6	△ 13
12 自 由 ケ 丘	3,554	7,179	3,273	3,906	0	△ 6
13 富 士 見 台	6,513	15,088	6,851	8,237	13	7
14 宮 根	3,812	8,009	3,720	4,289	12	11
15 千 代 田 橋	3,745	8,210	3,861	4,349	0	△ 18
千 種 区 計	88,855	165,140	80,124	85,016	43	△ 2
R5. 1. 1	87,802	164,956	80,075	84,881	△ 82	△ 157
対 前 年 比	1053	184	49	135	125	155
名 古 屋 市	1,159,223	2,327,322	1,142,256	1,185,066	350	△ 378
愛 知 県 ( R5. 12. 1 )	3,333,683	7,481,332	3,725,695	3,755,637	1,981	△ 1,069

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	80	117	△ 37	905	870	35

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値とは異なる場合がある。

## 名古屋市と千種区の救急活動状況

今回は名古屋市の救急統計情報に基づいて、名古屋市と千種区の令和4年の救急活動状況をみていきます。

まず、名古屋市の状況からみていきます。(図1) 救急出動件数が多い順に、中村区、中川区、中区と続き、千種区は7番目です。次に搬送人数を各区の人口毎にみてみますと、中区は約10人に1人、中村区は約12人に1人と年間で多く運ばれています。これは、繁華街やオフィス街が集中し、人流が多いため搬送人数が増えているものと思われます。名古屋市全体では約18人に1人の市民が、千種区では約20人に1人の区民が救急車で搬送されています。

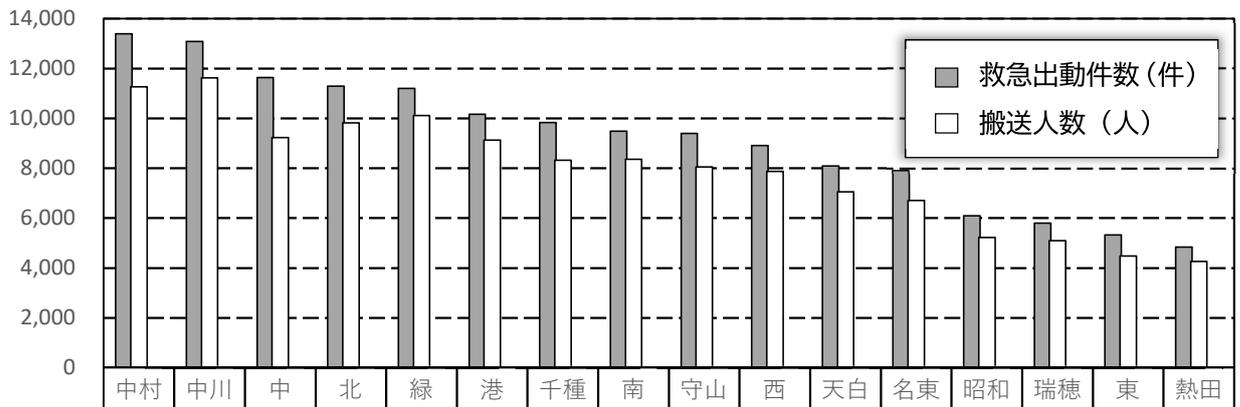


図1 名古屋市における救急出動件数と搬送人数（※市外のデータは含まず）

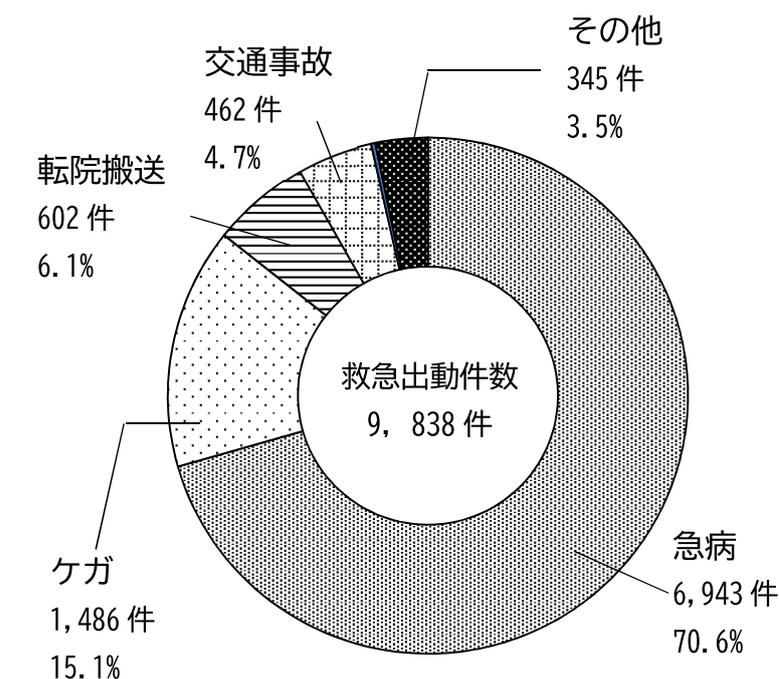


図2 千種区における救急出動件数の内訳

次に千種区の救急出動件数の内訳をみてみます。(図2) 急病による出動件数が最も多く、6,943件(70.6%)、ついで、ケガの1,486件(15.1%)、転院搬送の602件(6.1%)です。これらの順位は、名古屋市全体と同一です。令和4年は、新型コロナウイルス感染症の流行や猛暑による熱中症患者の増加などが救急出動件数を増加させた要因と考えられます。千種区では、1日に約27件の救急出動があり、名古屋市全体では、3.6分に1回のペースで救急出動しています。

なお、「令和4年中の名古屋市の救急統計について」は名古屋市のホームページ「暮らしの情報」→「消防・救急・火災予防」→「統計情報」→「救急統計情報」に記載されています。そちらもご覧ください。